

「差別をなくす」「あ」を踏み直そう！

人権子ども集會に

参加して

10月30日(土)、熊本市のパークドームで、「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集會」が開催されました。

はじめに、子ども実行委員長が、あいさつで次のよう呼びかけを行いました。

「今日の集會は、子どもたちが作り上げていく子どもたちのためのものです。『皆さん、人権学習での学びを活かしていますか。あなたの心の中に人を差別する心はありませんか』自分の思いを伝えるには勇気がいります。発表する人の思いを受け止めることや、自分を語ることで本当の友達に会えることを知ってほしいのです。今日はその第一歩です。一人ひとりが何かを持ち帰って、「一歩目を踏み出してほしいと思います。」

児童生徒の体験・活動報告

○小学校からは、人権学習を大切にし、特に発表に対する「返しの言葉」や「返しの手紙」

の取り組みを大事にして、互いの心とつながるようになっていくという報告がありました。

○中学校からは、小学校一年から水俣病の学習を続け、患者さんとの交流を通して、生き方や思いを学んでいる。周りの人には水俣病のことを正しく理解してほしい。私たちは水俣に住んでいる者として、水俣病について正しく伝えていきたい、そして水俣を誇れるようになりたいという報告がありました。

また、別の中学生は、突然倒れて手足が動かさず、視野も狭くなってしまった今の暮らしの中で、両親や大切な友達、多くの人たちに支えられている自分がいること。「ありがとう」の言葉の意味を体感し、一言では表せないけれども、「ありがとう」でしか表せないたくさんの方の感謝の気持ちがあることを語りました。

○高校生は、自分の辛かった経験や思いを語りました。小学校でのいじめや転校、中学

校生活の様子。学習会に参加して友人と一緒に過ごすことで安心して、自分を語ることで深められた絆。また、自分の生い立ちや家族の人生を知り、気持ちが荒れた時期があったが、解放学習をすることによって仲間と出会い、辛い時も悲しい時も乗り越えられた今の自分のこと。家族が一つ屋根の下で笑顔で暮らすことが自分の夢であると語りました。

発表者一人ひとりが言葉にできない思いや涙をこらえて語る姿を、参加者全員がしっかりと受け止め、会場からは激励の言葉と大きな拍手が送られました。

自分を振り返り、自分や他の人の暮らしを見つめ、「なま」として大切にでき、つながりあえる一歩。人権学習での学びを態度に表して行動する一歩。そんな一歩を踏み出せる私たちがやりたいという願いを強く感じた集會でした。

益城町教育委員会

あまの 地名遺産

歴史の変遷と地名

328

矢嶋姉妹周辺⑬

「菊と刀」は、日本では賛否両論ありますが、参考になります。

例えば、江戸時代の商人の借用証の末尾に「もし期日までに返済出来ぬ時は、人中で御咄い下され」と不義理を人前で侮辱されるのを、当然の罰として甘受することを明記したと言われています。恥を掻かない為には受けた恩は必ず返して義理を果たす、これが名譽の回復です。武士は、主家または我が家の名譽が傷付いた時は、切腹して責任を取り名譽を回復します。

矢嶋家を巡る一族は、肥後藩の武士社会での惣庄屋は下級武士ですが、一領一疋でも武士である以上、この道徳規範は当然です。私が益城町史の編纂の時、町内の郷土の家系の家での資料調査で見つけた蔵書は、四書論語・孟子・大学・中庸五經(易経・詩経・礼記・書経・春秋)のほか春左氏伝・史記・十八史略・唐詩撰・近思録・歴史綱鑑補・史記評林などを始めとする漢籍が中心でした。また、童子訓などの実用書です。これらの漢籍は、男子の

文化的教養ですが、そのほかに刀術・槍術・馬術・柔術・砲(銃)術・弓術が武術的基礎教養でした。戦国時代島津氏の家老の上井覚兼日記は戦国時代を知る一級史料とされますが、その中に上級武士は武芸のほかに古今和歌集や連歌・華道・蹴鞠・茶道・乱舞・手料理などが必須の教養として記され、特に細川幽斎の鯉料理は神技とされました。武士の文武の教養・技芸はこの様にして磨かれましたが、女性の教養書は江戸時代は知識階級の女子は日本の古典文芸作品などを含め、一般には「女大学」「比売鑑」和俗童子訓などが女性の基礎教養書でした。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



漢籍(近思録)